

つくるう 伸ばそう 鹿沼の文化 かぬま文化

No.183

発行人 鹿沼市文化協会
 発行責任者 会長 鈴木 貢
 編集委員会 委員長 小林 夏江
 印刷所 晃南印刷(株)

「令和8年鹿沼市文化協会新春のつどい」 報告

橋本房子氏「藍綬褒章」受章祝い

冬の寒さが穏やかな日となった令和8年1月17日に「文化協会新春のつどい」を「そば割烹日晷」にて開催いたしました。

主催者の鈴木会長が、令和8年度の鹿沼市文化協会創立50周年記念事業と第50回栃木県文化振興大会の実施についての意気込みを宣言しました。また、2月22日実施の「お茶とお花のフェスティバル」につ



松井正一 鹿沼市長



谷中恵子市議会議長

来賓の松井正一市長、谷中恵子議長、湯澤英之県議、片柳伸一会頭から、



片柳伸一商工会議所会頭

文化協会の活発な活動の賞賛と橋本氏の受賞の功績を讃えた新年のご挨拶をいただきました。続いて、来賓の神谷幸伸県議、大貫毅県議、福田義一副市長、中村仁教育長、石川さやか市議、鹿妻武洋市議、早川勝弘市議、駒場久和市議、大島久幸市議、西山義信参与、岩本久美子参与の方々をご紹介しました。



藍綬褒章受章 橋本房子氏(右) 鈴木貢会長

祝宴は西山義信参与の受



鹿沼民謡民舞連合会



日晷本館会場 西山参与乾杯の発声

章者を讃える温かい挨拶と共に、乾杯の発声が始まり、「鹿沼民謡民舞連合会」の皆さまによる華やかな踊りや唄を楽しみながら、会員相互の親交を深めることができました。

(事務局 福田由子)

◆◆◆◆◆	◆◆◆◆◆	◆◆◆◆◆	◆◆◆◆◆	◆◆◆◆◆
令和8年新春のつどい	1	フェスティバルを終えて	3	
新年あいさつ	1	お茶とお花の		
鹿沼市議場お茶会	2	フェスティバルに参加して	3	
生活文化部門		栃木県文化振興大会報告	4	
フェスティバルについて	2	塚原秀敏書展	4	
		編集後記	4	

新年あいさつ

会員の熱いご尽力で 文化協会創立50周年

令和8年、鹿沼市文化協会は創立50周年を迎えます。文化協会にとって50年という歳月は、決して平坦な道のりではありませんでした。

その歴史を刻むことができましたのは、会員の皆さまが修養や研鑽を積んで心身や技能をみがく熱いご尽力があったからこそです。

創立50周年記念事業の講演会を、9月26日に開催いたします。

講師は、栃木市出身で、人工知能研究やAI開発に携わり脳科学の新しい領域を開かれた、黒川伊保子先生です。

黒川先生は2004年に、『語感分析法』を発表しました。そして、イラストやモヤモヤに「目から



鹿沼市議場お茶会

鹿沼市茶華道協会茶道部 会長 高山 宗博



模範点前と説明の様子

この度、鹿沼市議会文化スポーツ芸術振興議員連盟主催の「議場お茶会」の開催依頼を受けました。今後の議会活動に役立てるのに自分自身を磨きたいため、日本の伝統文化であるお茶を体験したいとのことでした。大事な議会前の限られた時間に議場内に野だての趣向の席を設け、一服の茶がどのような作法で点てるかを見ていただく模範点前を披露しました。そして、松井



鹿沼市茶華道協会茶道部の皆様

市長と大島議員がお茶の作法を体験しているところを、参加者の皆さまは緊張の面持ちで見入っていました。その後、全員にお菓子とお茶を味わって頂きました。温かいお茶が振る舞われるとほっとした様な笑顔がとても印象的でした。「茶の湯とはただ湯を沸かし茶を点てて飲むばかりなることと知るべし」と千利休の有名な句があります。しかし、その当り前のことが簡単ではな



く難しいのです。忙しい時だからこそ自分を見失わないように一服のお茶で「心の癒し」を感じて欲しいです。お茶の世界は、心の緊張と開放の抑揚から生まれる感動の瞬間と、精神のすみずみまで自分を高める喜びにあふれています。私達、茶道部員も今回の経験を生かし自分自身の向上を志ざし精進して参ります。今回の議場茶会で、文化協会をはじめ、大島議員、また議事事務局の皆さまには大変お世話になりました。改めて深く感謝申し上げます。有難うございました。

生活文化部門フェスティバル

について

鹿沼市茶華道協会茶道部 副会長 大貫 宗正

鹿沼市文化協会の活動を多くの人に知ってもらおうと、生活文化部門事業の「お茶とお花のフェスティバル」が開かれました。

「こんなに一つ一つの作法でお点前をするのですね。難しいけど楽しい。すごい!!」などの感想を聞きました。

何よりうれしかったのは何人かが、「私もやってみよう」と言ってくれたこと。そして、茶道に親しみ、会員になってくれたら、伝統文化茶道の発展につながります。とても有意義なフェスティバルでした。



茶道は堅苦しいというイメージを払うべく「茶道の世界に飛び込もう」のサブタイトルをつけて体験教室を実施しました。まず、立札席を設けて、傘や棚に干支や季節を取り入れるなど、工夫を凝らした道具を整えました。この席では茶道部員による点前を見て、お菓子やお茶の作法を体験していただきました。また、盆の上に茶道具一式をいれる「略盆」の準備をし、一人一人に茶道部員が付いてお菓子からお点前の作法を体験していただきました。

体験教室の参加者は、帛紗の捌き方に苦労していました。最後に谷中市議会議長もお点前を体験し、「難しいけど面白い。」と笑顔でお帰りました。



茶道体験

フェスティバルを終えて

生活文化部門事業実行委員長 高澤 葉芳

2月22日、生活文化部門にて「お茶とお花のフェスティバル」を開催しました。

日本文化の「茶道」と「華道」、西欧文化の「フラワーデザイン」を皆さまに体験するという内容で、自分たちの普段の活動を皆さまに興味を持っていただくように、それぞれに工夫して臨みました。当日は予想以上の来場者があり、茶道とフラワーデザインは急遽、材料を追加し、華道も定員以上の参加になりました。体験者の感想は、「丁寧に教えていただき奥の深さが分かった。」「普段経験できないことができて良かったです。」など実際にやってみ

達にとっても、貴重な体験をさせてもらったと感じました。今回、この活動について



華道体験

達にとっても、貴重な体験をさせてもらったと感じました。

今回、この活動についてでは広報や新聞でも周知し、何件か問い合わせがありました。興味はあってもきっかけがないという方は案外多いと思います。このフェスティバルがそのような方々の「きっかけ」となることを期待しております。改めて3部会の皆さまのご協力に感謝し、今後も協力し合っ



お茶とお花のフェスティバルに参加して

フラワーデザイン部 軽部 弥生

鹿沼市文化協会生活文化事業「お茶とお花のフェスティバル」が2月22日(日)にかぬまケーブルテレビホール多目的ギャラリーにて開催されました。茶道部会、華道部会、フラワーデザイン部の3部会で事前の計画から開催までの間、高澤実行委員長を中心に会議を重ねて、実施の運びとなりました。日本古来の茶道、伝統の華道とヨーロッパ発祥のフラワーデザインの体験を通して其々の違いを知る企画でした。

フラワーデザイン部では、花束を制作する体験教室、歴史パネルの展示、作品展示でした。展示をした作品の紹介をします。①季節のアレンジメント桃の節句を丸いパラレル(並行)で制作(平行)で制作②丸い花束①スパイラル(らせん

歴史パネルには16世紀現代までの説明文を時代ごとに掲示し、華道との違いと共通点を再発見できた」と好評でした。

体験教室はとても盛況で20名定員のところ5名分が追加となり、次回には十分な数を用意したいと思いましたが、材料は、華道との違いがわかる花束

を選び、花の切り分けと整理、スパイラルに束ねる手法などを教えました。参加者の方々に「勉強になった。」「コツがつかめた。」と楽しそうに体験してました。

今回の事業を通して、フラワーデザインの普及、華道との連携、伝統文化との調和など新たな発見も沢山ありました。何より部門内の親睦が深まり、今後の文化協会の活動に貢献できたと思います。



フラワーデザイン体験

第49回栃木県文化振興大会報告

鹿沼市文化協会 副会長 高橋 進

第49回大会が、雲一つ無い青空にそびえる「那須野が原ハーモニーホール」で開かれ、鹿沼からは22名が参加しました。

来年は鹿沼市と日光市の文化協会が主催に加わるため、参考になればという思いの参加でもありました。お呈茶を頂き、文化選奨・文化奨励賞受賞者の作品展示を含む、ギャラリー部門の展示を拝見しましたが、第二ギャラリーの案内看板が小さく分かりづらく感じました。ステージ上でのウエルカムコンサートに続き、受賞者の表彰を含む式典の後、郷土色豊かな合唱、箏曲、吟詠吟舞、郷土芸能、黒羽餅つき唄に合わせたステージ上での餅つき実演があり、お見事でした。

ならば文化薫る手書き文字で掲げられたら良いと感じました。



黒羽餅つき唄



会員のギャラリー作品展



栃木県文化振興大会 那須野が原ハーモニーホールにて

II 塚原秀巖書展 II

書・奥深い芸術を求め

鹿沼市文化協会 会長 鈴木 貢

塚原秀巖書展は、新春の1月6日〜11日、東京銀座の鳩居堂画廊で開催されました。

近代詩文、漢字、木簡など大作と小品合わせて30点が展示され、1500人の来場がありました。

「書」という奥深い芸術を追求していきたい。読める書、生活の中に生きる書を広めたいと思ひ、古典の臨書をしながら創作活動を続けている。」という。

塚原先生の一つひとつの作品は、心に大きく響きました。

松尾芭蕉の句、竹内まりやの『Seize the Day』の目の前の一日を精いっぱい生きれば『いい』は、励ましと親しみを感しました。

版画家でもあり詩集も出版している川上

を感じました。



鳩居堂画廊にて 塚原氏(左)と鈴木会長

澄生の『雨やみし万月道路は動かぬ銀の漣夜更けて月の歩む路である』の作品は、迫力があり月の動きをイメージできました。

すべての作品を紹介できませんが、「生活に生きる書」を実感し、さらに書は楽しく、好きになって欲しいという塚原先生のお気持ち表れていた展示会でした。

塚原秀巖先生が、さらに光り輝く創作活動を進め、益々のご活躍を祈念します。

編集後記

令和8年新年を迎え、鹿沼市文化協会恒例の「新春のつどい」が、1月17日(土)に、協会会員の皆さまはもとより、松井正一鹿沼市長をはじめ、沢山のご来賓の方々にご臨席を賜わり盛大に開催されました。

セレモニーでは、令和7年度春「藍綬褒章」を受章された、橋本房子氏の受章祝いをしました。橋本氏に於かれましては、鹿沼市文化協会団体会員として「鹿沼喜多流緑扇会」の代表を務めていらつしゃいます。このように立派な功績のある橋本氏と共に、活動させていただけることは、誇りであり、励みともなり、文化協会の更なる発展へと繋がって行くことと信じています。橋本氏のこれからの益々のご活躍を、心より願っております。

また、会場の雰囲気をもっと盛り上げてくだ



寺崎 昌子

《編集委員会》
小林夏江
板橋和子
寺崎昌子
斎藤千恵子
大貫宗正